

卷頭言

人びとと共に生き、人びとに仕える

名古屋柳城女子大学

学長 菊 地 伸 二

2020年4月に名古屋柳城女子大学は開学した。こども学部こども学科という一学部一学科の小さな大学として誕生した。まさしく柳城の歴史に新たな一頁が加えられた出来事である。名古屋柳城女子大学は、柳城学院・名古屋柳城短期大学の「愛をもって仕えよ」という精神を継承しながらも、「人びとと共に生き、人びとに仕える」ことを大学の建学の精神として定めた。この言葉は、「愛をもって仕えよ」という言葉が新約聖書の「ガラテヤの信徒への手紙」に由来するように、直接、聖書に遡るものではない。ただ、「人と共に生きる」、「人に仕える」という人間の生き方・在り方は、聖書のうちに、またキリスト教のうちに深く根をおろすものである。

大学設立に向けて準備をする際に、文部科学省から再三問われたことのひとつが、新しい大学・学部を設置することに対して地域からはどのようなニーズや要請があるのか、というものであった。言い換えれば、なぜいま、愛知県に、名古屋市に、新たな保育・幼児教育の四年制大学が必要なのかという問いであった。おりしも国立大学もその使命からいくつものタイプに分類され、そのひとつとして地域貢献型大学というような呼称も広がりつつあるときでもあった。「人びとと共に生き、人びとに仕える」という言葉は、そうした問いかけに対する柳城学院のひとつの応答として捉えることも可能である。

キリスト教においては、「人と共に生きる」、「人に仕える」ことの原型を求めれば、イエス・キリストの生・存在に逢着することは確かなことであるが、さらには、その生き方・在り方は、父・子・聖霊なる神の教理とも無縁なものではないだろう。

父・子・聖霊なる神。父は神、子も神、聖霊も神、しかもそれは三つではなく一なる神であるという何とも理解しがたいキリスト教の神の教理。古代の教会の司教アウグスティヌスは、たがいに向き合って愛しあう父と子のイメージの中で、子を愛する父、父を愛する子、そして両者の間にかよっている愛なる聖霊を捉えようと試みている。子への愛、父への愛、両者の間に働く愛は三つに区別されるが、三つの別々のものではなく、むしろひとつの愛であるというように。

この三位一体なる神と類似した構造は、じつは信頼に満ちた他者とのあいだにも成り立

ちうるのではないだろうか。たとえば、ひとりの保育者（を目指す者）とひとりの子どもとの関係においても。保育者を全面的に頼ってくる子どもと、その子どもを受け入れ耳を傾ける保育者とのあいだにも。子どもを受けとめる愛、子どものために自らを磨く愛、そして両者のあいだに生き生きと働く交わりとしての愛、こうしたことは三つのことがらではあるが、ひとつのことへと収斂されていくものである。そしてこの三位一体的構造は、名古屋柳城女子大学のディプロマポリシーを構成する人間・社会人力、保育者としての職業人力、保育・子育て支援の創造力へとつながっていく。

ちなみに、校章の文様はトリケトラと呼ばれているもので、聖公会の源流を形成しているケルト教会にまで遡ることができるものである。一筆書きのできる文様で、三つでありながら一つである、三位一体なる神を象徴したものと言われている。

